

ターゲット英文 1

And it was only a year ago, as I write, that Harrison Birtwistle (perhaps Britain's leading modernist composer) condensed the Beethovenian concept of the composer into a dozen words **when he announced, 'I can't be responsible for the audience: I'm not running a restaurant.'**

[慶應大]

notes ▶ it was ... that は分裂文(強調構文)。分裂文に関しては §3~§5を参照
▶ as I write は「私がこうして書いている時」の意味

この英文では誰もが知っている when という語が使われています。when は「～する時」という意味の接続詞で、文法的には副詞節を作る従属接続詞です。僕たちが慣れ親しんだ「～する時」の意味でこの英文を訳してみると、

「そして、ハリソン・パートウィッスル(おそらくイギリスを代表する現代作曲家)が『私は聴衆に対して責任を持ちえない。レストランを経営しているわけではないのだから』と言った時、彼がベートーベンの作曲家観を12語に要約したのは、こうして今私がこの文章を書いているたった一年前のことだった」

くらいの日本語となるかと思います。ところが、意味がよくわからない、あるいは何とも不自然な文だ、という感じを受けないでしょうか。

本項では、「～する時」ではない when の用法に迫ります。ですが、その前の準備として、この用法の when に密接に関係のある進行形という文法形式が表す意味から学んでいきましょう。

まずは次の二つの英文の意味を考えてください。

(1) When he said that, Koki **was smiling**.

「そう言った時、コウキは笑っていた」

(2) When he said that, Koki **was lying**.

「そう言った時、コウキは嘘をついていたのだ」

最初の例は普通の進行形です。(1)では、「言う」と「笑うこと」は別個の行為であり、それが同時に起きたと言っています。「言った時に実際に笑っていた」ということで、文字通りの進行形です。

では(2)でも、「それを言う」という行為と「嘘をつく」という二つの行為を同時にしていた、という意味になるのでしょうか？それでは意味がおかしいと感じられると思います。

実は、その二つは別個の事柄ではなく、同じことを指しています。例えば、次のような状況を考えてください。Koki は Haruka が好きだが、Haruka は David のことが好きであり、Koki は David を邪魔だと思っている。そこで、「David には彼女がいる」という虚偽の情報を Haruka に伝えたとしましょう。そういう状況を指して(2)の文を言っていると思ってください。

すなわち、この文は「それを言うこと」＝「嘘をつくこと」という関係を表現したもので、「それを言うことは、すなわちどういうことになるのか」を解説しています。言い換えていると考えてもよいでしょう。それゆえ、このタイプの進行形は「(行為) 解説用法」と呼ばれています。「(行為) 解説用法」の進行形はかなり頻繁に使われます。

(3) **Are you implying that I'm dishonest?**

「僕が嘘ついてるって言いたいわけ？」

誰かに何かを伝えた後で、「あれ本当なの？」と言われて、何度も「そうだよ」と言っているのに、何回もしつこく「本当なのか？」と問い詰められたら、だんだん腹が立ってきますね。「君さあ、僕のこと疑ってんの？」と思ってしまうですね。そんなタイミングで(3)を言っていると考えてみましょう。「そうやって何度も疑うことは、すなわち僕のこと信用できない奴だと言っているのか？」と、相手の行為を言い換えていることになります。

以下では具体的な文脈の中でこの用法を学んでいきましょう。